



### 背景

このプロジェクトは 2014 年に第一期を開始し、今回はその継続事業として 2015-2016 年に第二期が実施されました。スリランカでは急速な都市化により地域の生物多様性を破壊する大気汚染、廃棄物汚染、水質汚染が進行しています。都市に住む若い世代が、もっと環境を意識することが早急に必要だという声を受け、スリランカのシティネットのメンバーである SEVANTHA と HELP-O は、このプロジェクトを開始しました。

一方学校教育においては、低学年では、環境教育は今まで保健や科学のカリキュラムに組み込まれており、教科書での説明が中心で、野外活動を通じた勉強はほぼ皆無でした。その結果、授業での焦点は試験に置かれ、生徒が地域の環境について理解することはほとんどありませんでした。そこで、子どもたちを対象として持続的な環境教育を行うプロジェクトを開始しました。

このプロジェクトはスリランカのゴールとコロomboでそれぞれ 6 ヶ月以上にわたって行われ、学校が環境教育に関してより良い学習方法と指導方法を採用するのを手助けし、生徒が地域の生物多様性の大切さを理解し個人の環境保護への取り組みを強めることを目指しました。

コロombo：スリランカにおける金融の中心都市。鉄砲水や大量の廃棄物管理、炭素排出に関連する呼吸器疾患の増加などの環境危機に継続して取り組んでいる。

ゴール：スリランカ南岸で最大の都市。2004 年のインド洋津波後、街は再建されたが、環境面で受けた損失の回復や頻繁に起こる洪水に継続して取り組んでいる。

### 活動実績：



### 2015年9月 スタートアップ・ワークショップ

このワークショップではプロジェクト全体の目的と概要が鶴見川流域ネットワーキングの阿部裕治氏によって紹介されました。その後、学校の近隣での動植物の採取と阿部氏の講義が続きました。ワークショップの終盤では、生徒たちはスケッチブックに気付いたことを記録し、採取した動植物の名前や種類を判別する訓練を受けました。

### 2015年9-12月 ワークショップ②

3つのワークショップがコロombo市とゴール市で地域のNGOから派遣されたスタッフにより実施されました。これらのワークショップでは講義と実地調査、そしてクラス内での植物の観察とディスカッションを行いました。参加した生徒たちには採取した植物の名前や種類の判別や、調査手法に関する宿題が与えられました。



実地調査中のゴール市の学生たち

## 2016年1月ワークショップ③

プロジェクトの集大成であるブックレットの作成のために、教職員と地域のNGOがブックレットに収録するコンテンツの編集を行いました。



動植物を観察中のコロombo市の学生たち

## 2016年4月 出版

完成したブックレット500部が近隣の学校やコロomboとゴールの市役所に配布されました。



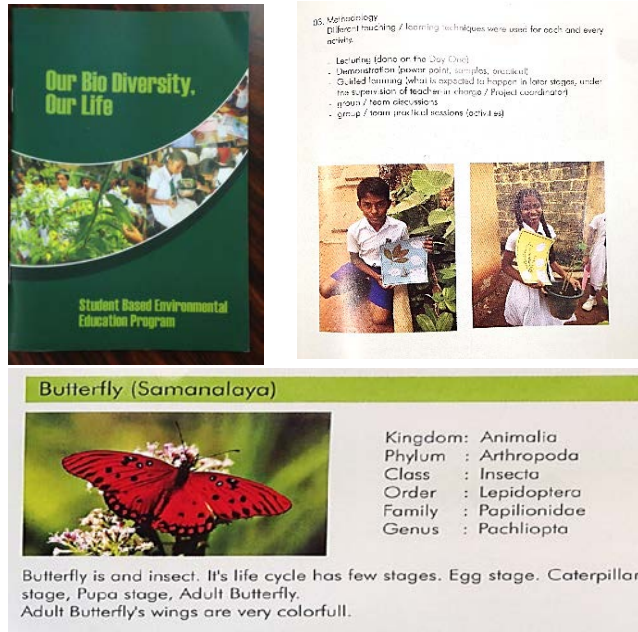
採取した生物

## 成果

- ・生徒たちは両親や身近な人達と地域の生物多様性を学ぶ大切さについて話し合っていた。
- ・生徒たちのプロジェクトに対する意欲が高まった。例えば、教職員の指導がなくとも自分たちで植物を育たり、校内の庭で植物の観察などをしていた。
- ・プロジェクトの終盤では、生徒たちから生物多様性と食物、薬品と環境保全の関係についての質問があがるようになった
- ・生徒たちはゴミ掃除をし、ハーブなどを学校の近隣に植えていた。

## 生物多様性ブックレット

スリランカ環境教育事業第二期の活動結果は冊子「Our Biodiversity is Our Life Booklet」としてまとめられました。この冊子は本プロジェクトで生徒たちが行った実地調査に基づいた植物と昆虫の情報が収められています。また、参加者のコメントや生物多様性の専門家による調査手法の紹介、本プロジェクトの生徒たちへの影響なども記されています。この冊子は今回のプロジェクトに関心を持った他のスリランカの学校に配布されました。この冊子はシティネットの環境教育とその結果について広く共有するために活用する予定です。



コロombo市の学生と専門家の阿部裕治氏

このプロジェクトは横浜市、鶴見川流域ネットワークワーキング、SEVANTHA、HELP-Oの協力で行われました。

